

中学校入学試験問題
(第1回)



国語

(平成26年度)

指示があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。
それまでこのページをよく読んで待ちなさい。

【注 意 事 項】

1. 問題の内容についての質問には、答えられません。それ以外のことがらについて、
たずねたいことがあれば、手をあげて、^{かんとく}監督の先生に申し出なさい。
2. 受験番号は算用数字（1・2・3……）で書きなさい。
3. この問題用紙に受験番号と氏名を記入しなさい。
4. 答えを書くときには、「、」や「。」やかぎカッコなども1字と数えます。

受 験 番 号			

ふりがな	
氏 名	

一 次の問いに答えなさい。

問1 線部を漢字に直しなさい。ただし、送りがなの必要なものは、それもふくめて書きなさい。

- ① ウチユウについて、班で調べる。
- ② この暑さでは、食べものがイタムおそれがある。
- ③ 細かいことは気にせず、ホガラカに過ごそう。

問2 線部の読みを、ひらがなで答えなさい。

- ① 町の復興を目標に、日々の仕事に取り組んでいる。
- ② 彼が、チームの要となる人だ。
- ③ 勇気を奮って、委員長に立候補した。

問3 一番大きい数字が入るものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ☐ 中八九
- イ 一寸の虫にも ☐ 分の魂
- ウ ☐ 階から目薬
- エ ☐ 石二鳥

問4 漢字の部首名として正しいものを、次から選びなさい。

- ア 部 (こざとへん) イ 積 (のぎへん)
- ウ 形 (さんずい) エ 情 (りつとう)

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

世界地図を頭に思い浮かべてみてください。

日本は、アジアの東のはしつこにある、小さな島国です。世界にはいま、二百近くの独立した国がありますが、日本の面積は世界でおよそ六十番目の広さです。けれども、日本の複雑に入りくんだ海岸線を、ぴーんと直線に伸ばしてみると、なんと世界で七番目の長さになります。

A 日本は小さな島国だけれど、海岸線はとても長いのです。日本という国と海とが、切っても切れない関係にあるということとは、この数字からもわかると思います。

それでは、そんな日本の海で、いったい何種類くらいの魚がとれるでしょうか。答えは、およそ三百種類です。それに、エビ、カニ、イカ、タコや海藻などを加えると、五百種類くらいになります。これだけ多くの種類の海産物を食べることができる国は、世界にはほかにありません。

みなさんは、「魚ばなれ」という言葉を聞いたことがありますか。日本人が魚を食べなくなったことを、表すときに使います。

ある中学校で講演をしたとき、生徒たちに質問したところ、家で食べたことのある魚は、マグロ、ブリ、アジ、イカ、エビなど、せいぜい十種類でした。五百種類のうち、たった十種類です。《1》
魚ばなれの原因は、日本人の食生活が、ここ三十年くらいの間に、肉中心になってきたことにあります。魚と米と野菜が中心だった日本人の食事に、カレーライス、ハンバーグ、スパゲティといっ

問5 それぞれの ☐ には同じ漢字が入ります。その漢字を答えなさい。

- | | | | |
|------------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| ① 故 ☐ | ☐ 図 | ☐ 識 | 同 ☐ |
| ② ☐ 処 | 改 ☐ | ☐ 悪 | 最 ☐ |

た洋食の占める割合が増えてきたことも、魚より肉が好まれるようになった原因だと言われています。《2》

それまで、肉はとっても値段の高い食べ物でした。なかでも牛肉はとくに高く、なかなか食べられませんでした。ところが、国全体がゆたかになり、値段の安い海外の肉の輸入も増え、日本人は肉の消費量を増やしていききました。牛肉も豚肉も鶏肉も、いまでは安くておいしい食べ物です。《3》

でもほくは、日本人は、魚中心の食事に戻らなければいへんなことになるだろう、と思っています。

食用のウシやブタをたくさん飼うためには、広い土地と大量の工サが必要です。でも日本は、面積が小さくて山が急で平野がせまいのです。ところが、魚がすむ海と接する海岸線はすごく長くて、川の水もゆたかです。《4》

X ☐ を示した数字を「食料自給率」といいます。いま、日本の食料自給率はたったの四〇パーセントです。B ☐、日本で作った食料だけで暮らすとすれば、一億二千八百万人の人口の半分以上の人が、飢え死にしまう計算になります。

自分の国で食べるものを自分の国で作れないで、半分以上を輸入にたよっているなんて、いくらお金を持っていたとしても、それは弱い国です。自分の国の食べものは、ほかの国にたよらずに自分の国で作ったり、とったりしてこそ、「国」と呼べるのではないのでしょうか。みなさんはどう思いますか？

そんなわけで、ぼくは、魚をもう一度、日本人にとって身近な存在にしたい、いろんな魚を、もつとおいしく食べてほしいと思うのです。

ぼくは、小さいころから魚が大好きでした。成長するとともに、釣り、料理、読書、音楽、新聞配達、漁師など、好きで、たいせつにしたいことが増えました。

よく、「自分が好きなものが見つからない」という声を耳にします。そんなときは、小さなことでもいいから、目のまえのことに熱中してことです。^④たとえそれが、便所そうじだっていいのです。どうしてもピカピカになるか、工夫してみましよう。

熱中しても、しばらくすればあきてしまうかもしれません。でも、それならそれでいいんです。あきたら横に置いておけば、また始めることもできますし、あとになってその経験が、きつと役に立つでしょう。熱中してやることに、^⑤むだなことはひとつもないのです。

ぼくは少年時代、釣りに夢中になりました。その釣りに助けられて、ともだちがたくさんできました。オーストラリアでは、釣りと料理のおかげで、言葉の通じない外国で、自分の居場所を見つけることができました。

高校生になると、^⑥さらに興味が広がって、魚だけでなく哲学や音楽にも夢中になりました。大学時代は料理の勉強とともに、すばら

しい漁師さんたちと出会い、その生活を体験しました。

そんな数々の経験のすべてが、いま、水産庁の役人として、魚の魅力^{みちりょく}を伝える仕事をするうえで、役に立っているのです。

魚の魅力^{みちりょく}を伝える仕事——。いまの仕事が「Y」かどうか、それは考えてもわからないことです。でも、この仕事を続けながら年をとり、若い人や子どもたちから、自分の仕事が好きかとたずねられたとします。そのとき、「やっぱり「Y」だな」と言えたとしたら、これまで出会ったたくさんの人たちに、お礼を言えたような気持ちになるのではないかと想像しています。

というわけで、ぼくはこれからも、「大好き」な気持ちをそのままに、たいせつと思うことをたいせつにしなが、自分になにができるかについて考え、生きていきたいと思っています。

（世の中への扉『大好き！』を見つけよう——上田勝彦さん」中原一歩

問1 ☐ A ☐ B にあてはまる語として正しいものを、それぞれ次から選びなさい。

- ア さらに イ しかし ウ もし
エ むしろ オ つまり

問2 ——線部①「世界にはほかにありません」とありますが、ここでは日本はどういう国だというのですか、次から選びなさい。

- ア 豊富な海産物を手に入れることができる国
イ 小さな島国ながらも海岸線がとても長い国
ウ 多くの魚がとれるのに食べなくなってしまった国
エ 海と人間の関係が切っても切れないほど深い国

問3 ——線部②「魚ばなれ」の原因として考えられることは何ですか、本文中の言葉を使って二十字以内で答えなさい。

問4 本文からは、次の一文がぬけています。入る場所としてふさわしいところを、文中の《1》《4》からさがし、算用数字で答えなさい。

このことから、日本という国は、肉よりも魚を食べるほうが、暮らしやすいということがわかるでしょう。

問5 ☐ X ☐ Y に入る言葉としてふさわしいものを、次から選びなさい。

- ア 世界全体の食べものの中で、日本が作っている食料の割合
イ 日本全体で輸入している食料の中で、国内で加工する割合
ウ 日本全体で食べている食料のうち、外国から買っているものの割合
エ 日本全体で食べている食料のうち、自分の国でとれるものの割合

問6 ——線部③「それは弱い国です」とありますが、どういう点が「弱い」のですか、二十字以内で説明しなさい。

問7 ——線部④「たとえ」と同じ意味になるように、次の（ ）にあてはまる言葉を十五字以内で考えて答えなさい。

私は、あなたを信じます。たとえ（ ）。

問8 ——線部⑤「むだなことはひとつもない」とありますが、筆者がこう考える理由としてふさわしいものを、次から選びなさい。

- ア 小さなことに對しても、熱中してみることが大事だから
イ いろいろ経験したことのすべてが、いつか役に立つから
ウ あきてしまったことのほうが、後になって自分の役に立つから

エ 将来必ず、自分が好きだと思える仕事につくことができるから

問9 — 線部⑥「さらに」は、どの部分にかかっていますか、次から選びなさい。

- ア 興味が イ 広がって
ウ 夢中に エ なりました

問10 Yには同じ言葉が入ります。ふさわしいものを次から選びなさい。

- ア 役職 イ 幸職 ウ 天職 エ 住職

問11 本文の内容としてふさわしいものを、次から選びなさい。

- ア 自分の仕事が好きかといつてもたずねられていいように、いろいろな想像を働かせながら、役に立つ経験を重ねていくとよい
イ 広い社会の中で、自分にはなにができるのだろうとしんけんに考えをめぐらせることで、魅力のある仕事につくことができる
ウ 今自分の目の前にあるすべてのことについて熱中すること、工夫する大切さに気づき、より良い生き方ができるようになる
エ あきてしまうかもしれないなどと心配せず、目の前のことに熱中し、工夫してみることで、「大好き」なものを得ることができるとができる

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「優太くん、ファイト！」

鶴じい^①が励まし^{ほげ}の声をかけてくれる。ぼくにはもう返事をする余力もない。無言で走り続けた。それが答えだと思ってほしかった。折り返し地点の南郷町との町境まであと少しというときのことだ。まずいな、という予感がまずあった。そのあとすぐに左足のふくらはぎがつった。激痛が走った。

「ひええ！ い、いてえ！」

よちよちと何歩か進んだあと、アスファルトに尻もちをついた。痛みで空を仰ぐ。汗がいつきに二倍くらい出た。急いで戻ってきた鶴じい^①が足をマッサージしてくれた。

「足がつったか。もうここまでにしよう」

鶴じい^①は神妙な顔つきで言う。でも、ぼくは叫んだ。

「いやだ！」

「なんでだい」

問いかけに答えずに、うつむいてアスファルトを睨んだ。姫や美月の抱えている悲しみや苦しみを知ってから、ずっと考えていることがある。幼くて、無力なぼくらは、どうにもできない問題にぶち当たったとき、いったいどうしたらいいのか。いったいどうすれば無力なぼくらから変われるのか。強く変われるとするならば、なにに対してどう強くなればいいのか。はつきりとした答えはまだ見えてこない。けれど、ぼくたちの周りでなにが起きているのかは、少しずつ見えてきた。

問12 本文の説明としてふさわしいものを、次から選びなさい。

- ア 前半では、具体的な数字や読み手への語りかけをばさみながら、日本人にとって魚は身近なものであることを伝えている
イ 前半では、海産物・消費量・食料自給率など経済の用語を使いながら、これからの日本は食料の輸入を多くするべきだと意見している
ウ 後半では、筆者の大切にしたいことをあげながら、「自分が好きなものが見つからない」現代の若者に対して夢を持つとのべている
エ 後半では、筆者の少年時代から大学時代の思い出をくわしく書きながら、「大好き」な気持ちをもち続けられれば満足を得られると伝えている

「中略」

大切なのはAだ。もっと高くジャンプして、青い空に手を伸ばすようにして、歪んだ大人たちがつかめなかった生きるつてことの楽しさを、ぼくらの世代が手にするのだ。

そのための強さを手に入れるには、足を踏み出さなくちゃいけない。それは大袈裟な話ではなくて、きつと身近な一歩であつてもいい。たとえば、ぼくの場合、いまここで投げ出さずに走りきること。なにかをやリ遂げること。身につく強さを、ぼくはいま手にすることがきつとできる。それがいつか大人の歪みをはね返す強さになる。友だちを救う力になる。

「鶴じい。残りは二・五キロくらいだよね」

「おお。そうじゃな」

「足をマッサージして治してよ」

「だがな……」

「あとちよつと休めば大丈夫だから」

強く言う^③と、鶴じい^①はしばしばの顔を見つめていたが、大きく頷いた。

ゆつくりと立ち上がったみた。屈伸をしてから足をぶらぶらさせてみる。大丈夫だ。鶴じいのマッサージはとても上手だった。

「大丈夫みたいです。行きましょう」

鶴じいに笑いかけて、ぼくから先に走り出した。ゆつくりだけれ

ど、絶対にゴールしてみせる。

体が疲れきっていてふらふらする。視界もゆらゆら揺れている。聞こえてくるのは自分の乱れた呼吸と、のろのろとした足音と、遠い波の音だけだ。必死に走っていると、考えることもほとんど単純になっていく。心の中で何度もくり返す。

「自分に負けない、自分に負けない」

単純になっていく自分がなぜかとても好きだ。気のせいだろうか。自分の魂が美しくなっていくような感覚がある。海や空や山がきらきらと輝いて見える。ぼくを見守ってくれているようでいとおしい。

ゴール地点が見えてきた。あと百メートル、あと十メートル、あと一メートル。近づくにつれて、自分に負けない、という気持ちさえ体の中に溶けて消えていった。ぼくは空っぽになって、ゴールを走り抜けた。

鶴じいがうれしそうに肩をたたいてくる。

「お疲れ。急に止まらないで、もう少し歩いてね」

ぼくは桜浜の海を眺めながら惰性でとぼと歩いた。しばらく歩いたあと、アスファルトに腰を下ろす。疲れて、すぐにでも眠ってしまいそうだった。

「どうだった？ 初めてのトライアスロンの感想は」

そばにやってきた鶴じいが訊いてくる。

「疲れしました」

鶴じいが笑う。

とにかく疲れた。でも、体がびりびりと震えるような B が
ある。心と体がいつせいに、充実してるぜ、と声をあげている。

「自信はついたかい」

「え？」

突然、思いもしなかったことを尋ねられて、首をかしげてしまった。

「優太くんは言っていたじゃないか。わしが八十歳になったってアイアンマンレースに出るって言ったら、すごいですねって。そういうがんばれる自信とかないですよって。だが、今日走り終えて自信ついたんじゃないの？」

ぼくは思いっきり頷いた。

「自信がきました」

鶴じいが、ぼくらを導いてくれるかっこいい大人のひとりだと、いまやつと気づいた。気づいてうれしくなった。

以前、鶴じいが話していたことについて尋ねてみたくなった。

「姫とモー次郎とぼくの三人の中で、ぼくがいちばん練習を見る必要があるって言ってましたよね」

「言ったよ」

「走り方を直せば、加倉井といい勝負ができるようになるって言ってましたよね」

「言ったとも」

「あれってどういう意味なんですか」

鶴じいはにやりと笑った。

「優太くんは体のどこかを故障したことがあるだろう」

「わかるんですか」

「ランニングフォームが、体のどこかを変にかばうふうに見えただよ」

「実は、前に左膝を」

「やつぱりね。左足の足首が開いたまま着地しているように見えただからね。もう完治はしてるのかい」

「はい」

「じゃあ、これからは、きちんとしたランニングフォームで走るように心がけよう。フォームはわしがチェックしてあげるから。練習メニューも作らなくてね」

「ありがとうございます」

お礼を言うと、鶴じいは本当にうれしそうに笑った。

⑨「それにしても、膝はどうして悪くしてしまったんだい」

いやな記憶がよみがえってきて、ぼくは浮かべていた笑みを引っ込めてしまった。話すべきか迷ったが、鶴じいになら話してもいいように思えて、ゆつくりと話して聞かせた。中学に上がってから急にサッカーが下手になったこと、ボールタッチの感覚がズレてうまくいかなかったこと、無理をしてドリブルやフライングの練習をしていたら膝を痛めてしまったこと、そして、逃げるようにサッ

カー部をやめてしまったことまで、悲しかった気持ちも全部話した。

「それはクラムジーだね」

話し終わると、怪獣の名前のような言葉を鶴じいがつぶやいた。

「クラムジー？」

「サッカーが下手になるちょっと前に、急に身長が伸びなかったかい」

「伸びました。ものすごく」

「うん。クラムジーだ」

鶴じいは確信したらしい。説明してくれた。

「体が成長期を迎えて、筋肉や骨格が急激に成長すると、体のバランスが変わってくるんだよ。テコで言うところの支点や力点や作用点というやつが変わってしまうんだ。だから、いままでできたテクニックができなくなるし、新しいテクニックも習得できなくなる。この時期をクラムジーと呼ぶんだよ。英語で、不器用な、とか、ぎこちない、という意味さ」

初耳だった。

（『空をつかむまで』関口尚）

問1 — 線部①「神妙な顔つき」とは、どういう表情ですか、次から選びなさい。

- ア さみしげで、あきらめきっている表情
- イ 気がはりつめていて、こわばっている表情
- ウ いつもとはちがう、おとなしい表情
- エ 強気にさえ感じられる、一生けん命な表情

問2 — 線部②「いやだ!」とありますが、そのように言った理由としてふさわしいものを、次から選びなさい。

- ア 大人の言いなりにだけはなりたくないと強がって生きているから
- イ 走りきることと身につく強さを手に入れられると思っているから
- ウ 鶴じいの優しさに、子ども扱いしないでほしいと思っているから
- エ ここを乗りこえれば、姫や美月の悲しみや苦しみがなくなるから

問3 — Aに入る言葉として正しいものを、次から選びなさい。

- ア ジャンプ イ テクニック
- ウ ランニング エ イメージ

問9 — 線部⑦「気づいてうれしくなった」とありますが、その理由としてふさわしいものを、次から選びなさい。

- ア 鶴じいが、加倉井との勝負に勝てるように練習をみてくれると約束したから
- イ 鶴じいが、自分のことを最後まではげましてくれて自信がついたから
- ウ 鶴じいが、歪んだ大人ではなくあこがれたいくなるような大人であるから
- エ 鶴じいが、あきらめずアイアンマンレースに出るといつてくれたから

問10 — 線部⑧「ぼくがいちばん練習を見る必要がある」とありますが、その理由としてふさわしいものを、次から選びなさい。

- ア 以前に故障したところをかばっているように見え、走り方にくせがあったから
- イ なかなかやる気を見せず、ほかの人より練習に取り組む時期がおそかったから
- ウ 過去のけがが原因で、物事をすなおに受けとめることができなくなってしまうから
- エ 鶴じいを信じていいか迷っており、自分の走り方に自信が持てないでいたから

問4 — 線部③「鶴じいはしばしばくの顔を見つめていたが、大きく頷いた」とありますが、この時の鶴じいの気持ちの変化を考えて説明しなさい。

問5 — 線部④「考えることもどんどん単純になっていく」とありますが、それはどういう気持ちだと言っていますか、本文中から十八字で探し、はじめと終わりの五字を書きぬきなさい。

問6 — 線部⑤「ぼくは空っぽになって、ゴールを走り抜けた」とありますが、この時の状態としてふさわしいものを、次から選びなさい。

- ア 疲労 イ 無心 ウ 空身 エ 痛快

問7 — 線部⑥「びりびり」と同じ性質の言葉を、次から選びなさい。

- ア 水がこんこんとわいている
- イ 戸ががたがたとゆれている
- ウ せみがみんなと鳴いている
- エ 足音がばたばたと聞こえる

問8 — Bに入る語として正しいものを、次から選びなさい。

- ア 脱力感 イ 存在感 ウ 達成感 エ 緊張感

問11 — 線部⑨「いやな記憶」とは、どこからどこまでですか、はじめと終わりの十字を書きぬきなさい。

問12 「優太」の説明としてふさわしいものを、次から選びなさい。

- ア 早く大人になりたくて背のびをし、苦手なことにもチャレンジした結果、自分の可能性を信じはじめている
- イ 何でも打ち明けられる鶴じいと接することで、今まで全く消すことのできなかった大人への不信感を弱めつつある
- ウ よい指導者とめぐり合い、強情なくせに弱いところのある自分を変えたくて始めたトライアスロンに夢中になっている
- エ 鶴じいというよき理解者に出会い、必死に走ることで自信が付き、自分と正面から向き合いはじめている

